

一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会 2026 年度 第 1 回理事会議事録

日 時：2026 年 6 月 11 日（木） 15:00~17:30

場 所：ウインクあいち（現地開催）

出席者： 理事長 平田 敬治

副理事長 下平 秀樹 山口 達郎

理 事 有賀 智之 奥川 喜永 川崎 優子 久保 真 隈元 謙介 小林 佑介

田辺 記子 中島 健 中山 佳子 平沢 晃 門馬 智之 吉田 玲子

監 事 青木 大輔 石川 秀樹 鈴木 眞一

司法書士 寺本 俊孝

オブザーバー 井本 逸勢

事務局 内山 覚巳 皆川 裕美 佐藤 貴

編集事務局 中田 るり子

理事 15 名、監事 3 名が出席し、本会が成立することが確認された。以下、平田理事長が議長となり議事を進行了た。

議 事：

【報告・審議事項】

1. 第 32 回学術集会井本逸勢会長より、翌日より開催される学術集会の準備状況について報告があった。

2. 理事長報告

平田理事長より、宇都宮譲二先生追悼企画、他学会との連携、今後の学術集会のあり方として引継ぎ事項の統一（DX 化）、日本医学会加盟申請（2026 年 5 月 15 日～7 月 31 日）に向けた準備状況について報告・協議が行われた。また、特別アドバイザーの任期が 2026 年 6 月社員総会終了日までとなるトータルマップ飛松由紀子氏について理事長任命で再任していただくことが報告された。

3. 庶務報告

資料にもとづき、2026 年 5 月 31 日現在の会員数（2473 名）、新規入会者（32 名）、および会費納入状況（納入率 67%）について報告があった。3 年未納者が約 300 名存在するため、督促状を郵送（振込用紙同封）して改善を図ることとなった。

4. 各種委員会報告・審議

① 総務委員会：平田理事長

資料にもとづき、通信理事会での「研修施設更新（18 施設）および新規（2 施設）の認定」「2025 年度決算報告書の承認」の決議について報告があった。来年度を目処に、理事長が兼任している総務委員長を別途選出する意向を示した。

② 会則委員会：門馬理事

資料にもとづき、名誉会員・特別会員推戴に関する運用整理、ガイドライン委員会規約改定の確認、定款細則の改定対応、作業部会委員会内規の確認について報告があった。

③ 財務委員会：下平理事

資料にもとづき、2025 年度決算について報告があった。なお、2025 年度決算については通信理事会において承認済みであることが併せて報告された。また、石川監事より、詳細な監査の結果特に問題点はなかった旨の報告があった。

④ 編集委員会：小林理事

資料にもとづき、学会誌投稿・刊行状況、投稿規定の区分に「ガイドライン」を新設し、文字数制限

を撤廃したことについて報告があった。また、英文誌発刊について、*Familial Cancer* 誌との提携交渉状況について報告があった。APC（5,000 ドル）の割引交渉や、学会独自の英文誌創刊の可能性を含め、継続検討することとなった。

⑤ 学術教育委員会：吉田理事

資料にもとづき、第 31 回、第 32 回学術集会での教育セッション、市民公開講座（北九州、愛知）、MGPT 手引き英語版の HP 掲載、今後の市民公開講座の予定について報告があった。また、学術集会の大会運営サポート（統一性の確保）を委員会の活動として位置づけることの報告があった。

⑥ 保険診療委員会：吉田理事

資料にもとづき、令和 8 年度診療報酬改定の共有、および令和 10 年度改定に向けた会員アンケートの実施状況について報告があった。

⑦ 専門医・HTC/FTC 制度委員会

●専門医制度小委員会：隈元理事

当日資料として、正規遺伝性指導医申請者リストが提示され、承認された。資料にもとづき、2026 年度 E-learning 配信予定のコンテンツについて、2026 年度遺伝性腫瘍専門医試験の実施予定について報告があった。また、次期委員長として植木有紗先生、新規委員として山本弥寿子先生の追加が承認された。

●HTC/FTC 小委員会：川崎理事

資料にもとづき、専門医試験問題の一部共有による作問体制の強化、看護管理者向け広報戦略、第 32 回学術集会においての単位対象セッションについて報告があった。

⑧ 遺伝性腫瘍セミナー委員会：中島理事

資料にもとづき、第 28 回遺伝性腫瘍セミナーおよび第 4 回遺伝性腫瘍アドバンストセミナーの開催報告、第 29 回遺伝性腫瘍セミナー開催案内、第 5 回アドバンストセミナー開催準備状況について報告があった。また、テキスト作成時の転載許諾（著作権料）への対応について、出版各社との関係や、デザイン性を排したスライド作成の推奨などについて協議された。

⑨ 将来検討委員会：平田理事長

学術集会後のアンケート結果について報告があった。アンケートでは「現地参加に加え、後日配信の視聴を希望する」との意見が多数寄せられており、オンデマンド配信について今後も継続して検討する方針が示された。

⑩ ガイドライン委員会：平沢理事

資料にもとづき、委員会規約の整備、各種ガイドライン作成・改訂に関する情報共有、Minds 診療ガイドライン作成支援サービスの活用、学会ホームページにおけるガイドラインリンク集改訂について報告があった。審議事項として、予算修正申請（統括委員会出張費および Minds セミナー受講料計 65 万円の追加）について審議され、承認された。

⑪ COI 委員会：久保理事

資料にもとづき、日本医学会の新指針に準拠した「利益相反（COI）管理指針・細則」の全面改定案について報告があった。改定案には、対象者の拡大や組織 COI の導入等が盛り込まれている。審議の結果、Q&A における「特定委員会」の定義等の文言を修正することを条件に、原案どおり承認された。また、COI 申告について、Web 上で申請を行うなど手続きのシステム化に関する意見が出され、今後の検討課題とすることとなった。

⑫ 倫理審査委員会：奥川理事

第 32 回学術集会演題の倫理審査状況について、特段の問題がないこと、第 33 回学術集会についても今回同様の事前審査を行う予定について報告があった。

⑬ 広報委員会：有賀理事

資料にもとづき、ニュースレター配信、HP リニューアル、「遺伝とがんについて知ろう」サイトの運用保守に関する DEPOC 社との契約締結について報告があった。

⑭ 遺伝カウンセリング委員会：田辺理事

資料にもとづき、がん医療者向け動画の学会 HP への移行完了、第 32 回学術集会における遺伝カウンセリング委員会企画の開催、第 34 回日本乳癌学会学術総会でのコラボレーション企画（合同シンポジウム）について報告があった。また、疾患横断的な実務マニュアルの作成を目指すことを目的とした「遺伝性腫瘍症候群遺伝カウンセリングマニュアル作成委員会（仮称）」の設立について提案があり、審議の結果、本活動は新規の委員会を設立せず遺伝カウンセリング委員会内で開始することが承認された。

⑮ 国際委員会：山口理事

資料にもとづき、国際学会情報の配信状況および第 6 回トラベルgrant 賞の選考結果（2 名選出）について報告があった。また、今後の取り組みとして委員会業務の DX 化を推進し、Web アプリを活用して各委員が進捗状況を入力・共有できるシステムの構築を進める方針が示された。

⑯ 臨床委員会 Lynch 症候群委員会：山口理事

資料にもとづき、レジストリ研究の進捗、Lynch 症候群診療ガイドライン作成進捗状況、Lynch 症候群の遺伝学的検査の保険収載を目指した 4 学会合同の見解書発出準備状況、Lynch Syndrome Forum 2026 の開催予定について報告があった。

⑰ 作業部会委員会：中山理事

資料にもとづき、5 部会の活動状況について報告があった。審議事項として、活動期間満了を迎える SPS 部会および PJS 部会の 3 年間の継続申請について審議が行われ、承認された。また、第 33 回学術集会における部会セッションは SPS 部会が担当することが報告された。

⑱ 評議員選出委員会：門馬理事

資料にもとづき、2028 年度の一斉選出に向けた要件見直しの検討状況について報告があった。

4. その他

1. 第 33 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会について有賀智之会長より準備状況の報告があった。
2. 第 34 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会について平沢晃会長より準備状況の報告があった。
3. 臨床委員会内に設置する HBOC 関連委員会の設立について協議が行われた。JOHBOC との役割分担や委員会名称を含めて検討した結果、「臨床委員会 遺伝性乳癌卵巣癌症候群委員会」として設置することが承認された。
4. 令和 8 年度診療報酬改定に関連し、HBOC 血縁者診断に係る要望書の共同提出について報告があった。

以上